Interview

新和建設だより
～新和のわ～

vol. 7

2026年10月23日発行



維持部門　花巻亨（はなまき　とおる）

長きにわたるクレーン経験を活かし、道路維持の最前線で活躍する花巻亨さん。日々、車と人が行き交う国道で、暮らしの安心と安全を守り抜いています。重機のワンマン化という時代の変化に直面しながらも、後進へ技術をつなぐために新しい道を模索する花巻さん。そのプロフェッショナルな姿を深掘りします。

まずは、当社に入社した経緯をお聞かせください。

以前はクレーンのリース会社に所属し、15年以上建設現場などでクレーン操作に携わってきました。しかし、その会社が突然解散してしまい、職を失ってしまったのです。職業安定所に通い、今後の道を模索する中で紹介してもらったのが当社の求人でした。募集要項を見ると、私が保有している大型免許、大型特殊免許、クレーン免許のすべての資格を活かせる仕事だったため、入社を決意しました。

現在は重機で道路清掃や草刈り、冬場の除雪作業などを担当しています。作業をすると、みるみる道が綺麗になり、走りやすく安全な道路へと生まれ変わります。そうした目に見える変化を自分の手で作り出す面白さが、この仕事の一番の魅力です。

業務で難しさを感じるのはどのような点ですか。

常に気を配っているのは、周囲への安全対策です。前職では一般の人が立ち入らない建設現場で、状況を把握している作業員たちと仕事をしていました。 しかし現在は、一般車両や歩行者といった第三者がすぐそばを行き交う国道で作業するため、特別な注意が必要です。

そのため、作業中は車両の掲示板や黄色い回転灯を活用して、通行者が現場に近寄らないよう周囲に知らせています。また、通勤通学で車や人が集中する時間帯を避けて、朝９時過ぎに作業を開始し、16 時以降は控えるなど、交通状況に合わせて判断しています。

私たちとしても「早く仕事を進めたい」という思いはありますが、人や車が重機のすぐ真横や前後を通り抜けていくため、あちこちに目を光らせつつ、慎重に作業しなければなりません。作業効率と危険防止を両立させるのは至難の業ですが、安全第一は絶対に妥協できない重要な部分だと感じています。

安全配慮以外にも、譲れないポリシーはありますか。

何事においても基本を怠らないように心がけています。機械に乗る前は気を引き締めて、始業前点検を入念に行います。この手順を省いて作業に向かうと、途中で車両に異変が起きたときに焦りが生じ、適切な対応ができなくなってしまうからです。朝の段階で状態を把握しておけば、万が一のトラブルにも冷静に対処できます。

機械も人間と同じで、年数を重ねるごとに状態が少しずつ変化していくものです。個々の状態に合わせてうまく付き合えるように、その日の調子を正しく理解し、大切に扱っています。



▲機械除草中

さらに、自分一人ではなく会社で共有する車両だからこそ、次に乗る仲間が気持ちよく安全に使えるよう、車内を整理整頓する習慣も大切にしています。

最後に、今後の展望をお聞かせください。

業界全体で世代交代が進む中、若手社員が安心して機械を操作できる環境づくりが大きな課題です。昔は除雪車に、運転手と助手の２人で乗って作業を行うのが主流でしたが、近年は人手を確保するのが難しくなり、１人で重機を操作するワンマン化が進みました。

運転手のサポートとして車内に目視確認用のカメラが導入されていますが、同乗者がいないため、万一のときにリアルタイムで指導ができません。うっかり傷つけてしまったと報告があれば、事後に理由を聞き、「こういうときはこう操作したらいいよ」と口頭で教えるしかなく、その場で直接教えられないもどかしさを感じます。

このような壁を乗り越えるため、GoPro などの小型カメラで記録した作業主観映像で技術を学べるようにするなど、新たな指導方法のアイデアを練っているところです 。

次代を担う若手たちがよりスムーズに技術を習得し、安心して現場に出られるような仕組みを構築していくことが、私の目標であり大切な役割だと考えています。

基本を重んじ、長年向き合ってきた重機に深い愛情をもつ花巻さん。自身のスキルを最大限に発揮し続ける姿は、仲間たちにとっても大きな原動力となるはずです。これからも花巻さんは、次の世代が確かな技術を身につけられる環境づくりを目指して、着実に歩みを進めていくでしょう。

うちの部署の「ココが自慢！」

今回は本社勤務の小田さんに、業務のこだわりや仕事の工夫を踏み込んで伺いました。細やかなおもてなし、温かい職場の雰囲気など、仕事への誇りとやりがいが伝わる本社のリアルな声をお届けします。

Vol.02 心地よい雰囲気を本社からつくる



事務・総務 小田（おだ） 由美子（ゆみこ）さん

明日から真似できる！
仕事の工夫や時短術

優先順位を決める

年末調整など忙しい時期になると業務が立て込みますが、そのようなときは「どの仕事を優先すべきか」を整理し、計画を立て直すようにしています。急ぎでないものは後回しにするなど、優先順位をつけて確実に対応しています。

あえてアナログな手法でのタスク管理

日々の支払い漏れを防ぐために、あえてアナログな手法を取り入れています。パソコンの中だけで管理すると見落とす可能性があるため、支払期日が近い振込用紙には日にちを書いた付箋を貼り、机のすぐ手の届く専用ファイルに置いています。物理的に必ず目に入る状態にしておくことで、期限切れなどのトラブルを防ぎ、確実な処理につなげています。

ひそかにココが自慢！
本社の強み

社内・社外への細やかなおもてなし

来客時のおもてなしにはこだわりを持っています。以前、高級ブティックで販売業をしていた際に、お茶を出す順番や出し方などの礼儀作法をみっちりと仕込まれました。その経験を活かし、ご来社いただいたお客様や社内メンバーの好みを把握し、相手に合わせたお声がけを心がけています。社内・社外を問わず、少しでも心地よく過ごしていただけるような細やかな配慮を、これからも大切にしていきたいと考えています。

社長から広がる温かい職場

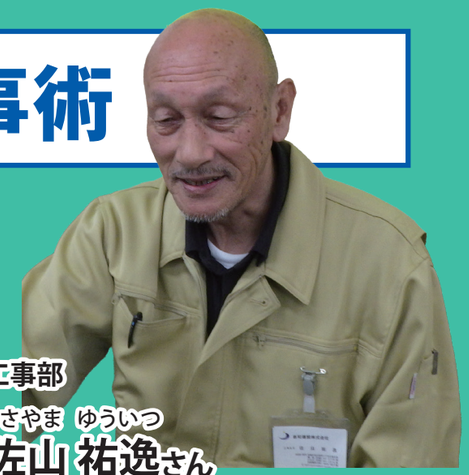
職場の雰囲気も大きな自慢の一つです。特に社長は非常に柔らかいお人柄で、私が緊張しているとユーモアを交えて場を和ませてくださいます。仕事に対して厳しい面もありますが、TPOに応じて柔軟に対応してくださるため、本当に働きやすい環境です。50代になってから入社した私ですが、このような温かい空気に包まれて仕事ができていることに、日々深く感謝しています。

本社から皆さんへ……
伝えたいリアルな思い
会社全体の健やかなコミュニケーションのために

20代で販売業に携わっていた頃、先輩から「自分の機嫌は自分で取る。職場に私情を持ち込まない」と指導された経験があります。当時はピンと来ていませんでしたが、年齢を重ねるにつれ、不機嫌な態度が周囲に余計な気を使わせ、職場の空気を悪くしてしまう重みを実感するようになりました。そのため、仕事では常に平静を保ち、誰に対しても公平に接することを自身の心がけとして大切にしています。他部署の皆さんともお互いに過剰な気を使いすぎず、気持ちよくコミュニケーションを取りながらスムーズに連携していけたらと思っています。

明日使える現場仕事術

「明日から使える」ノウハウをテーマにご紹介いただくこの企画！
今回は佐山さんに、15年以上実践している具体的な仕事術と、大人数の現場を止めることなくスムーズに納めるための段取りのこだわりを伺いました。



工事部 佐山（さやま） 祐逸（ゆういつ）さん

明日使える！仕事術
忘れ物やミスを防ぐメモ習慣



現場へ入る際は、当日の工程についてシミュレーションを行うようにしています。具体的に考慮するのは、その日何名の方が来て、どのような流れで作業を進めるのかといった点です。
また、持ち物にも工夫をしています。持参するのは、A5サイズの手帳や関係各所の連絡先、工事に関する資料など。手帳には作業内容や打ち合わせ時間、搬入される資材などを箇条書きで記し、終わった作業を赤線で消していくようにしています。これは、どこまで進んだか、何が残っているかが一目でわかるようにするためです。さらに、縮小した工事概要や図面をセットで携帯することで、記録用写真を撮る際にすぐに工種を確認できるよう準備しています。

なぜ実施するように？どのような効果を感じますか？
抜け漏れの防止やスムーズな現場進行

こうした習慣は15年以上続けていますが、報告の漏れや手違いの防止にとても役立っています。日々の業務の中では、遠方の現場や、協力会社の方が多数入る大規模な現場に携わることも少なくありません。そのため、毎日しっかりと流れを考えておかなければ、作業が滞る原因になってしまいます。大人数の現場を止めないためにも、自分なりのペースで段取りをしておくことが大切だと感じています。

こだわりポイント
デジタル時代だからこそ活きるアナログ手帳



使用している手帳は中身だけを毎年取り替えられるタイプです。紙に文字を書く機会が少なくなってきた方もいらっしゃるかと思いますが、簡単なことでも書き留めておくと後々役に立つかもしれません。箇条書きでメモに記録しておくことで、一時的に忘れてしまってもすぐに見返すことができています。